

# 愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579

E-mail:airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替:01020-5-39321

編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者:平田 義

## 115号

## 地域で暮らす ~入所施設から地域社会での僕の生き物語り~

様々な事情で地域で暮らすことができず、施設で生活されている障がいのある方がいます。今号では30年間の重症心身障がい者入所施設での生活から、再び地域に戻ることを決断され、約14年間地域で暮らしてこられたキムギョヌウ（金岡耕祐）さんの「生き物語」を、お母さまのカンキジャ（金岡貴子）さんに寄稿していただきました。是非ご一読ください。（平田 義）

### 1、入所施設での生活

僕は、2008年10月8日に入所施設を30年経て、33歳の時にわが家に帰る事になったのだが、12歳の頃には、ドクターから「もう家に帰るのは今回で最後です。そして、ロウソクの灯が消えるように（老衰）・・・」と云われた時はオカンも僕もショックだったよ。

オカンは、僕を施設に預ける時の約束で「必ず迎えに来るよ」という言葉を覚えていて、2008年にその約束を果たそうと動き出したんだ。毎年、肺炎になって高熱をだしては、施設の職員の皆さんに心配や迷惑をかけていた僕がいきなり在宅生活する事は無謀だと思われて猛反対があったんだ。けれども、「約束を果たす」と決めたオカンの意志は強かったんだ。何度かの施設での宿泊体験を重ねる中で、施設の職員も、オカンの連れて帰るという本気さを感じていったみたいだ。そして施設側は根負けして納得してくれたみたい。

僕は何時もドクターストップで、小・中学校の修学旅行は行った事がないので、高校生になった時に、オカンは啖呵をきって「何事が起きてても責任は問いません!」と云い高校修学旅行に行くことができた。学校や地域の多くの方の支援で、初めての半日旅行に参加したんだ。行くにあたり車中に医療器具を載せ、まるで車中病室のようだったよ。また、もしもの場合の病院を調べるなど、様々な細かい事まで綿密に計画してくれた。近くの東雲寺の庭園を見学して、音に敏感な僕の為に京都市交響団のファゴット奏者の、生演奏を聴き、楽しく嬉しい思い出となったよ。3時間程だったけど、僕が外の世界に触れることが出来て、オカンは歓喜極まり大泣きしながら喜んでくれたよ。

その後、僕は相変わらず1年毎に肺炎を起こしていたけど、2005~6年は僕の体調が良くて、ストレッチャー車椅子で施設から駅に行き、電車で京都駅まで行ったんだ。駅に着いてオカンと会った時は、気の強いオカンなのに、待っていたホームで僕を見つけては大泣きで、僕は少し恥ずかしかったけど我慢したよ。伊勢丹のお店で食事（注入）をして梅小路公園を散策したり、岡崎動物園にも行き、ダイヤモンドハナで買い物、日吉ダムでプール、アルプラザでボーリングと、あっちこっちに連れて行ってもらったなあ。

退所の日には、仲間達や職員が祝って送り出してくれた。色紙の寄せ書きには沢山の職員から『社会資源を有効に!』と書かれていたみたいだが、オカンはその時は意味を理解することが出来なかったみたい。だけど、僕が暮らしたい場所自分らしい生活が実現出来るようにと願い、オカンはヒートショックしないようにと和室・DKの室温を一体にし、家の中を何処でも車椅子ごと移動出来るようにとフローリングにして段差を無くし、バリアフリーにしてくれていた。

家には、僕の必要な物が全てが備えられていたので、暮らしな

れた施設を離れる寂しい気持ちと自分の部屋があるお家に帰れる嬉しさで複雑な気持ちだったよ。

### 2、地域での在宅生活

退所2日後には僕は新しい座位の車椅子で「シサム」に通所したよ。

実はオカンはすでに「社会資源」を有効に利用していたんだ。オカンがやりとりしていたところが「社会資源」だと認識していなかったみたい。オカンは家に連れて帰ろうと決心したあと、社会福祉法人イエス団愛隣館に電話をし、京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」と繋がり、生活介護事業（重症心身障がい者通所「シサム」）や障がい児者ホームヘルプ事業「ゆうりん」の利用を決めていたんだ。

退所後の翌月の11月に、僕の1歳~3歳まで掛かりつけ医だった、高谷清先生の記念講演をオカンは聞きたくNPO法人医療的ケアネットワークが主催する全国大会が京都で行われるので参加。高谷清先生の《障害の重い人の感覚性、運動性、関係性と人格、生命》を聞いて感銘したオカンは、入所施設の時に僕の頭をMRI検査した結果、「脳がくしゃくしゃ」と云われていたので詳しく知りたくて、質疑応答の時にオカンは「このような状態の子でも感情・感動はあるんですか?」と尋ね、先生から『無脳な人でも感性はあります』と力強く云われ、オカンは僕に対しての価値観や生命観・医療に大きく転換するものになったみたいだ。

それから、オカンは僕を細かく観察するようになり、オカンなりに僕の動きで僕の気持ちを察するようになった。

最初の出来事は、僕の右の鼻にパチンコ玉くらいの鼻茸（鼻ポリープ）がいつからか出来ており、病院に連れていかれた。耳鼻科の待合室で待っている時に何か良からぬことが起こるのではないかと感じ、僕は鼻たけを鼻の中に隠してしまった。それを敏感なオカンに気づかれてしまった。その後、診察室に入って、オカンがドクターと手術の打ち合わせをしているのを聞いて、顔面蒼白になってしまった。それを観たドクターは、今後、僕はお話しする時には参加しなくても良いですよ!と云ってくれた。けれども、僕は僕の事を知りたいので自分の耳で聞くように頑張ったよ。オカンもその気持ちを分かってくれていたみたい。

2度目は、東海道新幹線の三島駅ホームで待っている時に、素通りしたのぞみの猛風と轟音に驚き、鳩が豆てっぽうをくらった表情になって僕はオカンを驚かせた。オカンは、そんな僕の表情



▲母と息子3.11メモリアルキャンドルにて

を見た事がないので、びっくりしたみたいだけど、僕がいろんなことを感じて表現しているんだと認めてくれるようになったんだ。

地域での生活が1年にもならない2009年7月18日に甲子園へ阪神タイガースの応援に連れて行ってもらったのは、初めての遠方外出で僕にとっては最高の思い出になったよ。六甲おろしを歌いながら、7回裏に色とりどりの鮮やかなジェット風船が暗い闇の夜空を大輪の花火のように散っていく光景を初めて見た僕は、びっくり仰天で目を見開いて



▲ 甲子園7回裏!

すぐ感動したんだ。けれど、応援の甲斐もなく延長戦で阪神は残念にも負けてしまったけど、楽しい思い出だったなあ。雨で中止になった時もあったけど、毎年連れてもらったなあ。



▲ デイサービス一泊旅行

その2ヵ月後には、デインサム1泊旅行にも初めて参加したんだ。三重県の『なばなの里』に行き、温泉に抱っこで入れて貰った時は気持ち良かったなあ。宴会で歌って笑っての雰囲気全部が衝撃的な体験で良い思い出だったなあ。その後も毎年一泊旅行に参加し、愛知県ラグーナ蒲郡、倉敷では星野仙一記念館、六甲オルゴールミュージアム、志摩スペイン村、姫路セントラルパーク、有馬温泉、鳥羽水族館にも元氣に行くことができたなあ。

その他にも行事が沢山あり、お花見、ミニクッキング、BBQにも毎年参加したよ。グループで夜にお出掛けする夜間プログラムでは、京都タワーをエレベーターでつべんまで上り、街を見下ろして眺めるとネオンが宝石のように光り輝きとっても綺麗だったよ。

『夜の街 ネオン誘われ  
ちよぷり大人気分で 散策ありき』

僕はお出掛け後に、体調を崩す事はなかったけど、入退院は何度か繰り返して、在宅でも入院は8回もあったなあ。

僕のオカンは空気が読めずけったいな性格をしている。

それは、2013年2月15日～3月11日の入院の時、かなりの重篤であったみたいだ。危機は乗り越えたんだけど、退院がまだ決まっていない状態だった。そんな状況なのに、オカンは、僕を近鉄電車の新型観光特急『しまかぜ』に乗せたくって、チケット購入を申し込んでみたい。当選することも難しいチケットなのにオカンは運良くゲットしたんだ。僕はそのオカンの気持ちに応えようと頑張って退院したんだ。それで、3月21日に移動支援を使って1日一本運行の『しまかぜ』に乗って終着駅・賢島に行ったよ。オカンは車両内を見学をして、展望車両、カフェ車両を見学し最高だったみたいだったけど、僕は車椅子での移動は出来なかったんだ。また、オカンは車椅子トイレを見て僕のオムツ交換に適してないつくりになっていたのをとても残念がっていた。出しゃばりのオカンは背広姿の偉いさんにも、オムツをしている高齢者の方や障害者の方のためにも、オムツ交換が出来る台を設置して欲しいと訴えていた。今後は誰もが『しまかぜ』を安心して、利用できやすいように考えて欲しいと熱く語っていたな。オカンのバイタリティには本当に感心する。

賢島駅から宿泊先の宝生苑までの送迎バスがあったけど、車椅子では乗れなかったんだ。徒歩で20分くらいかかったけど、天気が良かったのでラッキー。僕は少し身体が汗ばっているのゆつたりと露天風呂に入れてもらい気持ちが良かったなあ。

でも、いろいろお出掛けすると、まだまだ高齢者、障害児者にとっては自由に動くことができなかつたりなどの制約がいっぱい

あつたりするのは悲しいと僕は思ったよ。

他にもオカンと一緒にいろいろとお出掛けをしたなあ。大阪の新世界散策で通天閣に登ったり、大きな観覧車を抱っこしてもらってあべのハルカスを眺めて一回り、これはオカンの研修をかねての一泊旅行だったなあ。そして、滋賀県近江八幡の休暇村にも行ったなあ。京都の宝ヶ池で行われた「乾杯の夕べ」の花火大会も初めての体験だったので感動したなあ。花火が打ち上げられるのを僕は抱っこをしてもらいながら間近で見ると、暗闇の空に綺麗な花火が大きな音とともに打ちあがり、とても迫力があって楽しかったなあ。伊丹の「しえあ〜ど」が主催された「寝転んで楽しめるコンサート」にも行ったよ。お出掛けする時は、オカン一人では僕の介助が難しいので、いろんな人の支援を受けて行くことができたんだ。

東日本大震災で『関西電力の計画停電』が行われようとしていた。もし計画停電が実行されると僕は吸引器を使用しているので、停電がおきると痰を吸引してもらえないと生命に係わる。オカンは僕だけでなく、人工呼吸器を使用している人も地域にはいるので、関電に電話で抗議をした。交渉を毎日毎日重ねていき、関電から発電機を借りれる事になったんだ。理不尽なことを決定されて黙っているのではなく、声をあげていくことで、変わっていくことができたんだ。こうゆう前例をつくっていけば、何かあった時にも、皆が声を出しやすくなると思ってのことだったみたいだ。幸いにも計画停電は実行されずに本当に良かったと思うよ。オカンは学歴の無いことをいつも卑下しているが、いざという時は何事に対しても前向きに行動をしていたよ。

こんな風にオカンは、いつも、僕との30年の溝を必死で縮めようとしていたと思う。

僕にとっては、こんな素敵な体験が積み重ねられたのも、地域社会の中で共に暮らせたお陰だと思う。

僕の支援に携わってくれた一人一人の寄り添う関りで、僕は表情が豊かになり笑顔もいっぱい出るようになっていったんだ。僕の笑顔はその一人一人に対しての感謝の表現なんだ。

僕は雑草の如く、引き抜かれても踏みつけられても、又新たな芽を何度も出してきたが、力尽きてしまった。

46歳の最高の人生!!そして最高の思い出!!

(昇天2021年9月1日)

施設・通院(ショートステイ)・あいりんの皆さん  
14年の幸せな時代(とき)を本当に有難うね。  
キムギョンウ(金岡耕祐)

『供え花 咲いては散りし 美しく  
逝きし子想い 涙ひとすじ』

『沈む陽に 寄り添う介護 笑顔にて  
嬉しさ伝え 僕逝くなりて』

《生きているだけでは駄目ですか?》

君は笑顔で何時でも傍にいる  
君はスタッフや仲間をを全身で聴いている  
耳が聴こえなくても聴こえている  
目が見えなくても 見えている  
君は今までのいろんなものを聴いて  
いろんなものを見て  
いろんな経験ができ喜んで  
いろんな事を感じ精いっぱい生きている  
君は感謝の気持ちで目と目があえば笑う  
肌と肌があえば笑う  
君の心は見えないけれど君の顔の表情で判るよ  
君は至福の時代を迎えられ嬉しいだよ

『限りない 生命の希望 喜びは 心折れしも 輝きなりて』

《僕らがこの世に光を》

パラリンピック(アスリートの方達)音楽関係の方達が沢山の夢を与えてくれている。だから、私はそう思いたい。

カンキジャ(金岡貴子)

## こども・おとな食堂 「ひまわり」

2022年5月、こども・おとな食堂「ひまわり」の活動が始まりました。

当会は、京都市伏見区向島地域の二ノ丸学区・二ノ丸北学区にお住まいの方を中心に、様々な事情によって食事を満足に摂れていない子どもたちや、食事をつくるのが難しい一人暮らしの大人の方、外国籍の方や障がいのある方などが、共に集い、食事を通して、交流することができる場を提供する事を目的としています。

二ノ丸学区社協、二ノ丸北学区社協、二ノ丸・二ノ丸北民生児童委員協議会、向島駅前まちづくり協議会、中嶋農園、向島地域包括支援センター、伏見区社会福祉協議会、愛隣館等で構成し、地域住民の方々の手によって毎月開催しております。

また、参加された方が単に食事をするだけではなく、調理補助や配膳、食後のレクリエーション活動等、参加者同士の関わりやつながりをつくれるように役割を担える工夫をしています。

2022年5月7日(土)に第1回目を開催。ちらしずしと天ぷらに舌鼓をうちました。食後には、地域の方から母の日にちなんで、折り紙でカーネーションの作り方を教わりました。

6月は、鉄板でつくった焼きそば、おにぎり、オニオンスープ、そして食後には地域の方の美味しいコーヒーを頂きました。飛び込みでウクレレ演奏もありました。

7月は、揚げギョーザと春雨サラダ、卵とわかめのスー

プ。食後には、七夕飾りを行いました。「戦争がおわりますように」「学校にいけますように」など、子どもたちが短冊に願いを一生懸命書いてくれました。



▲こども・おとな食堂 ひまわりにて

その他の月は、バーベキュー、冷やし中華、かき氷、餅つき、からあげなどなど、毎月みんなでワイワイと楽しみました。

11月からは会場を向島市営住宅5街区集会所に変更して開催しており、2月の餅つきには、150名くらいの参加がありました。参加者も継続することで増えていき、現在では100名ほどの方々が集っています。

この活動を継続していくことによって、多様な人たちが、互いを気にかけてあい、自分に出来る役割を担い、共に食事を通して楽しい時間を過ごすことで、インクルーシブ社会の実現を目指していきます。

(聞き取り：四方真紀子)

開催日 毎月第1土曜日 12:00～14:00  
(会場の都合により変更あり)

会場 向島市営住宅5街区集会所  
(当初はむかちゆうセンターで開催)

参加費 子ども(中学生以下)は無料、  
大人は300円



## 元気バザール2022

向島ニュータウンは、入居開始から40年余りが経過し、住民の高齢化が進み、空き住戸も増えている現状があります。その為、地域コミュニティの活性化や、その仕組みづくりが必要だと感じている地域の方も多く居られます。特に高齢者や様々な障害のある方は、社会から孤立させられることが多いと感じます。

向島駅前まちづくり協議会と愛隣館が共催し、「高齢者も障がい者も、地域の住民と共に交流できる場所」として、向島駅前「元気バザール」は、2018年6月に始まりました。以降、毎年3.6.9.12月(3の倍数月)の最終(日)10:00-13:30、向島中央公園西詰石畳広場にて



▲向島伝道所チームが歌を披露

(※日程・場所は、変更になる場合もあります)開催しています。気が付けば、5年目に突入することになり、当初15店の出店数から始

まったイベントが、現在30店舗を越え、回を増すごとに活性化していると感じます。

障がいのある方が、地域の高齢者の方と一緒に売り子になったり、お話ししながらご飯を食べたりしている姿や、外国出身の方が作った本場の料理や飲み物を初めて口にする姿、コーヒーを飲み比べ、パンを食べ比べて、どちらの方がどうだと語りあう人たち、格安の新鮮野菜を購入し、今日の晩御飯を話し合う親子、音楽に合わせて、障がいも年齢も国籍も関係なく歌ったり踊ったり…、温かい時間が流れていきます。

これからも高齢者や障がいのある方、社会から弱くさせられている方々と繋がり、共に生きていく為の場所、向島地域住民の交流の場の一つとなっていけばいいなあと思っています。皆さんも一度足を運んでみてください。

(森 拓平)



▲にっこりカフェ

### 短歌 コーナー



与えられた イメージ悪い 町だけれど  
でも愛のある この町が好き

水谷清美さん



## ご支援ありがとうございました

今年度も多くの皆様に支えられて活動を続けていくことができました。  
今後ともよろしくお願い致します。感謝を込めてお名前を載せさせていただきます。

### 愛隣館研修センターを 支えて下さった方々

#### 《月定会員》

#### 愛隣館研修センター賛助会名簿

伊吹寛子、奥田美代子、蠣崎達也・瑞恵、柿本真介、君村千代子、菊地義則、林栄子、松井實・知恵、松野正信・清美、森雄子、安野喜仁、優美  
(11名 176,000円)

#### 郵便振替寄付者リスト(個人)

秋山幸美②、秋山慎一郎、池添素、井口和佳、内山睦雄、梅田健也、大阪医療センター白阪琢磨、岡本宣雄、上内鏡子、川田よしみ、川西大祐、川上瑠夏、加来翔志、川中大輔、北野井一恵・智恵子②、喜多明子、木村健治、小磯満②、小谷達矢③、小西望、近藤孝子、小林右奈、五藤薫子、後藤一志、佐々岡キクコ、斉藤哲・斉藤宏子、坂本和子、東海林美希子②、鎮目恭輔、清水元介、清水千賀子、菅令子、瀬戸隆博、高木千雅子、竹内富久恵②、高橋恒太、滝口宣、高橋秀幸、田宮綾子、月下星志、辻中徹也、豊嶋寛子、刀根史

恵、永島鉄雄②、中西静子②、中川颯汰、中田ひさ子、西大路潤子、野島正光・共子、平井徳子、樋口和哉、日高幸子、富士定夫②、藤田早紀、朴実・清子、松本敏生、みどり野保育園園長中田一夫、宮本真希子、三矢佑悟、村瀬義史、村田稜太、本吉慎一郎、山本あかり、大和エンジニアリング株式会社山本尚樹、柳本真太郎、藪中翔太、劉梶本雪梅、匿名  
(82口 863,400円)

#### 郵便振替寄付者リスト(団体)

石橋教会、岡本教会、軽井沢追分教会、京都丸太町教会、錦林教会、京都教会、京都YWCA、啓明学院、甲子園二葉幼稚園、神戸教会、夙川東教会、世光保育園、同志社高等学校校長山崎敏昭、同志社中学校、同志社女子高等学校、同志社高等学校宗教部、新島学園中学校・高等学校、西小倉めぐみ教会、原宿教会、光の子保育園、枚方くずは教会、前橋教会、翠ヶ丘教会、友愛幼稚園、洛陽教会、洛南教会  
(26口 175,000円)

#### その他寄付者リスト(個人)

足立こずえ、巖建設・巖国彰、川上瑠夏、栗原展子・朗、小中謙吾・福田竜一・宮坂亜矢子、齋賢司、清水元介、寺本喜宥②、丹羽克吉②、畠田知佳、松原巧、松田美枝、溝口修造・智之②、村田明隆、山田啓人・長谷川昌代、安野喜仁・優美②、安野友喜  
(23口 1,366,469円)

#### その他寄付者リスト(団体)

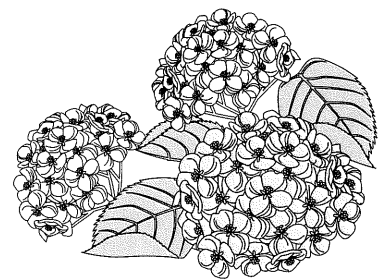
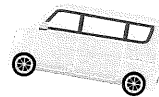
NAの会、笑顔つながろう会、空の鳥会、日本語教室、おつきみ会、伏見民商、伊藤珠算教室、ウイリアムス神学館学生会、向島駅前まちづくり協議会、二の丸・二の丸北民児協(22口 222,150円)

#### 合計 2,803,019円

2023年3月31日まで 敬称略  
尚、記入に際しましては万全を期しておりますが万が一記載漏れがありましたらご一報ください。

### 🚗 運転手募集 🚗

内容 愛隣デイサービスセンター  
重症心身障がい者通所「シサム」での送迎  
資格 運転免許 時給 1000円  
休日 木曜・日曜・年末年始・GW  
時間 8:30-18:30の間 1日3~4時間程度 週2日より時間・曜日相談に応じます  
待遇 交通費実費支給(上限20,000円)、自転車・バイク通勤可



### 新愛隣館建設後の募金のお願い

～インクルーシブ社会の実現を！～

みなさまのお支えにより、ここまで活動を続けてくることができました。感謝です。

コロナ禍で、皆さまにおかれましても、大変な状況だと存じ上げますが、「インクルーシブな社会の実現」を目指す愛隣館の活動をお支えいただけませんか。どうぞよろしく願いいたします。

<目標金額> 300万円

<寄付金振込先> 寄付控除が受けられます

郵便振替：01020-5-39321

口座名義：社会福祉法人イエス団愛隣館研修センター

### 編集後記

▼みなさまからのご意見ご感想お待ちしております(さ)

▼今号で寄稿していただいたカンキジャ(金岡貴子)さんは、耕祐さんを施設から連れて帰ろうと決意する約1年前に、当センターにFAXを送信して下さっていました。愛隣館研修センターニュース第69号(2007年春号)を読まれて、その感想を送って下さっていたのです。その時の記事は1面が「あらためて平和について考える」というテーマで、近江八幡で行われた、朝鮮学校と日本の学校の子どもの合同焼き物展のこと、2面には「障害者自立支援法」の問題点が掲載されていました。在日朝鮮人として厳しい差別の中で生活されてきたことと、障がいのある息子さんを施設に預けているご自身のことがFAXには記されていたと記憶しています。センターニュースの記事が読者の心を揺さぶることができていたんだと嬉しい出来事でした。これからも気合を入れて今皆さまと共に考えていきたい事を伝え続けていきます。(ひ)